



月刊第519号

# スポーツ・芸術 食彩の秋

町内めぐり駅伝、第二十一回  
シーサイドマラソン大会と恒例  
のスポーツイベントも終わった。  
残念乍らシーサイドマラソン  
は雨にたたられ気温も急に低く

口悟さん(新潟市小針)の力強  
い宣誓、大会長の高橋誠町長も  
十キロ走に挑戦、白バイの先導  
で雨の中をもとせせず三十キ  
ロ、五キロ、十キロの順に元氣  
一杯スタート。  
さすがにゴールに用意された  
レモンの氷水は売れ行き悪く、  
名物熱つ熱つの番屋汁に人気集  
中、間に合わぬ程で台所方は多  
忙を極めた。

駅伝は高校生チームのオコシ  
が優勝、二位野積光風ランナー  
ズA、三位寺泊健走会の順位。  
マラソンでは五キロ女子横坂  
美智子(与板町)同中学男子反  
町和弥(長岡堤岡中)十キロ高  
校男子中島裕(与板高)同男子  
横田晃行(福井工大)同女子荒  
井佳子(そよ風レディーズ)三  
十キロ男子篠崎和雄(本田技研  
栃木)同女子高坂由樹子(長岡  
陸協)がそれぞれ優勝した。  
はまなすでは演劇フェスティ  
バルが開催、三年間の研修生の  
子供達が「よだかの星」為兼・  
初君を題材にした「浦の浜風」  
が初演され大きな喝采を受けて  
いた。次は芸術祭に向けて各団  
体特訓猛練習の真最中。

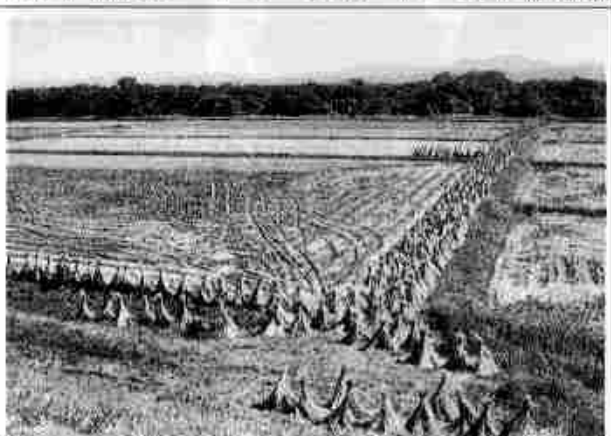


已報伊能忠敬全国ウォークに伴走した車には即座に現  
在地点の経緯度を表示する機器が搭載されていた。文  
化センターはまなすの位置は表示の経緯となる。我が  
家の位置も凡そこれに準ずるものと思つてよい。

明治四十一年に大河津村第二  
尋常小学校として設立認可、現  
寺泊町立山ノ脇小学校が九十周  
年を迎え、秋晴れの十月二十四  
日賑々しく祝典を挙げる。

## 山ノ脇小学校 創立九十周年祝典 催される

児童数僅か四十一名四学級の  
小さな学校だが、「小さな学校  
小さな巨人」を合言葉に学習に  
スポーツに音楽芸術に頑張つて  
いる。  
最近の活動としては文化セン  
ターはまなすの鍛帳のコンペで  
当時同小学校校長の笹川英志雄  
先生(現町教育委員)の指導の  
もと三年生の共同作品「はまな  
す讃歌」が見事優勝、美しく優  
しいはまなすの花の群生する空  
を鷲の飛ぶ図柄の鍛帳がステー  
ジを飾っている。  
又美術面では県絵画版画コン  
クールで平成八年九年と連続で  
学校賞を受賞、音楽でも県リコー  
ダーコンテストに平成九年初出  
場で銀賞、奨励賞を、つづいて  
十年にも銀賞を獲得している。



収穫の終わった田圃にはほっとした表情がある。春耕から  
休む間もなく稲を育てつづけてきた母なる大地の休  
息の時である。やがて雪に覆われて眠りにつき来るべ  
き春を待つのである。

衆議院議員で名誉町民となら  
れた故小林進氏は「おらの学校」  
と大変な気の人れようであった。  
昭和二十年を境に、生れよ増  
やせよの気風と疎開児童等で三  
百五十人以上の児童数となった  
時代もあり、この学び舎に集った  
児童は二四〇〇名余、又教職員  
も二三〇名が奉職、現校長五十  
嵐正巳先生で二十六代目となる。

### 山ノ脇小学校校歌

一、国の光を身にうけて  
学びいそしむはらからに  
信濃の川の尽きぬこそ  
たゆまざれとのさとしなれ  
二、恵みの里にはぐくまれ  
むつみかわせるはらからに  
越路の雪の清きこそ  
心みがかんかがみなれ

# 史跡ガイド ボランティア誕生

公民館事業の一環として、史跡ガイドボランティアの養成講座がもたれ、その成果が去る十月十日聚楽園で催された「初君祭り」の席上で披露された。来町の折など御活用頂ければと、その一部を御紹介申上げる次第。御照会先は町教育委員会 電話七五―五―五五五まで

## 「為兼・初君」について

藤原為兼がこの寺泊を訪れたのは、今から七〇一年前の一二九八年（永仁六年）である。権中納言と言う位にあつた為兼は、幕府の執権北条貞時に陰謀の疑いをかけられ佐渡への流刑となつた。



彼の疑いをかけられ佐渡への流刑となつた。寺泊に滞在した約一ヶ月の間、彼をもてなしたのが初君、別名初若である。二人は別れに際して、互に和歌を交わしている。逢うことの、またいつかはと木綿綿、かけし誓ひを、神にまかせて、越路の雨の白波も物思い、越路の雨の白波も、あちかへるならひ、ありとこそきけ、初君

後の許されて京へ戻つた為兼は「玉葉和歌集」の編纂に当たりこの初君の和歌を同集におさめている。また、為兼が佐渡で詠んだ歌は全部で三十三首あるがそのうちの三十一首を並べて、各歌の一番目の文字を詠んでいくと、「先」に紹介した「逢うことの」の歌になると言ひ遊びを為兼は行っている。

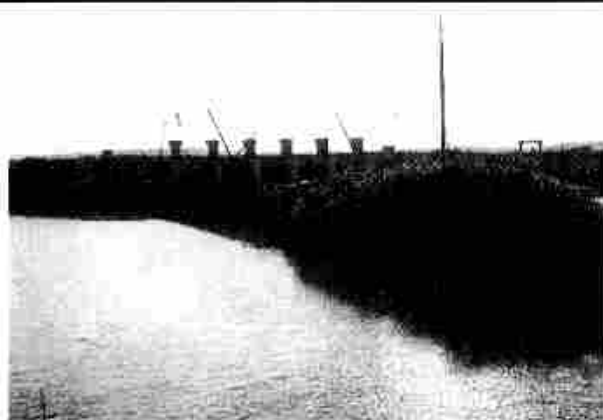
## 「越の浦神社」

今から八〇〇年前、佐渡に流される途中寺泊に滞在された順徳土皇はまだ二十五才の青年であつた。上皇は五十嵐家菊屋に身を寄せられ、半年後に佐渡へ旅立ってゆかれた。そして、その後四十六才でおかくれになるまで、一生生涯に戻ることはなかつた。五十嵐家では上皇の死を悼んで、貞野御陵と真向うように祠を建てたと語り。

会は、もと祠が建つていたと言ふ場所にて越の浦神社を建設し、傍に石碑を建てた。その石碑には上皇が寺泊で詠んだ三首の和歌が刻まれている。越の浦神社の建設は、折しも勃発した大平洋戦争のあおりを受け、当初予定されていた神殿、拝殿の建設は結果的に実現しなかつた。しかし注目すべきは、これ等の設計が帝国大学工学博士の伊東忠太（一八四七―一九五四）によつてなされたことだろう。伊東忠太は「日本建築の父」と呼ばれる建築家で、弥彦神社や平安神宮、明治神宮などの設計を手掛けている。また、奈良の法隆寺の柱にギリシャ神殿の建築技法「エンタシス」が採用されていることを発見したのもこの人である。★越の浦神社の竣工は昭和十五年七月のことであり、この時の記念写真が偶々上片町刈部家（現当主刈部一司さん）に保存されておられ、その中には故外山勳兵衛さんの若い姿もある。当時四才の刈部一司少年の姿のあるのが目を魅いた。（中村注）

## 「弁慶手塚の井戸」

今から約八〇〇年前、源平合戦で活躍した源義経が、兄頼朝から逃れる為に京都から奥州平泉に逃げたという話は有名だが、義経はその途中にこの寺泊に立ち寄つたと言われている。寺泊での義経は、五十嵐家に隠されたが、その際に弁慶の



掘った井戸がこの「弁慶手堀の井戸」である。

追われる身の義経は、五十嵐家でも目立たない裏手にかくまわれ、弁慶は義経の使う手洗いや洗顔用にと井戸を掘ったと言う。江戸時代の漢字者亀田鵬斎は「弁慶井銘」を詠んでいる。

「弁慶井銘」 亀田 鵬斎

泓沸寒泉 敏斯為井 其味甘美  
其氣清冷 可以釀酒 可以煮茗  
大旱不涸 巨浸不充 歴祀六百  
源々無窮 誰其鑿之 法師慶公

### 町内祭りのこと

寺泊で各村落や各町内にそれぞれ神社がある。

町部の各神社では三月と九月

に町内祭りが催される。

かつては各町内の人々の結びの上で大きな役割を果たしてき

たのだが、最近ではあまりほんそうにされていないと言うのが率直な印象であるが、それでも神社係の呼びかけで事前の清掃作業、当日は織立て、奉納灯提

の飾り付けと従来通りの形は守られ、神主さんを招いておつとめがあげられる。

各家庭でもささやかながらオコワや団子で普段と違ったご馳走が用意される家も珍らしくない。

特に港町の稲荷神社では、初午、春祭り、秋まつりとこの町内祭りが盛大に催されているように、神主さんのおつとめの際にはほとんど全町内こぞつてのお

参りで、その後の直会は当番の人達の手料理で大変な盛り上がりとのこと。

各家々では神社への神酒の奉納も沢山で、かつては勤めておられる方々の為の夜の部の直会も用意すると言う二本立ての時代もあった。

さすが最近では当番に負担のからぬように夜の部は中止となつたそうだが、神主さんも加わつての賑やかな直方で、唄や踊りも時には出て町内親睦の大切な場となっているようである。

人間関係がどこでも稀薄になり勝ちな近頃、町内祭りを盛大にして地域の共同意識の高揚を計ることこそ折角守りつづけている神社の最大のご利益と言ふことになるのかも知れない。

### 小波会十月句会詠草

兼題

花園・鶴鶴他当季

花圃明るし 小形 美代

カラクリ時計塔の上

膝ついて 江原 汀子

花壇の声に耳澄まし

花園を 石川 致女

めぐり名知らぬ花と会ふ

やわらかき 大越碧水子

農夫の声す花の園

洗堰 加勢 白汀

竣工近し石たたき

野佛と 小島 冬扇

日がな遊べり石たたき

鶴鶴や 外山 海子

我に憂いの残る朝

鶴鶴の 竹内 霍山

とどまり難し最上川

兔やんま 中村 流瓢

妻入の道貞直に

コスモスは 矢尻ゆきを

やさしき花よ姉のこゑ

出國の 水沢 蕉子

一日延びて菊贈



今夏猛暑の中で活躍した釣瓶が秋の陽射しの中でぼつねんと日向ぼっこ。あちこちで井戸が御用済みとなつて姿を消してゆく中、山の町のこの井戸はしっかり守られている。

### 誌代御後援

(敬称略順不同)

豊橋市	長谷川寿朗	金五千元
福島市	柿木 敏雄	金三千元
父木真山	原田 松治	金三千元
岡谷市	外山 哲敬	金三千元
弥彦村	関本 清	金三千元
浦和市	佐藤 光子	金三千元
横浜市	関本 隆	金三千元

鷹釣りに 外山きよし  
一人混じれり車椅子  
富士の水 能登 頑牛  
たたへて霧の河口湖  
身を振り 小島 温石  
落點膳に上りけり

### 同期の仲間呼びかけて 東京寺泊会で逢いましょう

二〇〇〇年は東京寺泊会結成四十五周年になります。毎年二月第一週日曜日に芝パークホテルを会場に寺泊出身者の集いが開催されます。町当局の代表や新潟県人会、近隣町村東京会の代表が来賓として出席されます。ふるさとだよりからも毎年出席させて頂いております。

新潟市	佐野 善之	金五千元
〃	解良満智子	金三千元
寺泊町	土田 明	金三千元
〃上田町	成田 昭	金三千元
〃上田町	住吉 三郎	金三千元
〃津町	能登 洋一	金三千元
〃	御名前不明	金三千元

席させて頂いております。東京寺泊会の会員やふるさとだより誌友以外の人でも自由に参加出来ます。年に一度関東圏在住の郷土人が一堂に会してふるさとの話や思い出話に花を咲かせるのは楽しくなつかしいことです。先日東京会会長の三上喜久治さんが来町されて、明年の四十五周年記念の集いの打合わせをしてゆかれました。今回は東京会役員の方々を中心に手づくりの楽しい集いを計画しておられるとのこと、学校の同期同級の仲間呼びかけて賑やかでなつかしく楽しい会になるようお願いいたします。期日は二〇〇〇年二月六日の日曜日です。

### 里神楽(太夫舞) 明治神宮で上演

三島郡大々神楽伝承会は拾人会と称して会長の矢尻昭市さん(寺泊山田在住)を中心に練習を重ね伝承芸能の保存に努力しておられる。町の白山姫神社の大祭をはじめ要請に応じて祭礼等に多く出演しておられる。

東京寺泊会の総会の後祝宴となりますので会員以外の方々は十二時半頃までにおいで下さればよいと思います。連絡先は 三上喜久治 千一四四一〇〇四四 大田区本羽田一―二―一四 電話 三三四四一―二五四七



名門みや旅館の解体工事が始まった。平成9年の暮れで営業を終り、おしきや、みや旅館と言う歴史の幕は閉じられた。すぐ裏手の船形も已に解体、駐車場に変身。寺泊も一つの変わり目か。

### あとがき

此の度縁あって東京明治神宮の正面出拝殿で奉納上演する運びとなった。当日は大宮チエ、和正さん他八名が出演の予定。在京郷土人で時間の都合がつく方は是非見て頂きたい。日時 十一月五日午後二時半

分水の洗堰の工事も竣工間近愈々下流部分の大工事へ向けての動きが始まるのであろうか。寺泊が新しい変化を遂げる契機にもなるかと言ふ事になりなうらしい。町の授産施設で働く障害をもつ青年達の為のグループハウス「さくら」が八日開所した。自立へ向つての遅い歩みに期待

秋の旅行シーズンを迎えて觀光パスの乗り入れも日毎賑わい菊まつりに向けて関係業者は多忙の季節を迎える。文化祭、芸能祭りを目前に文化センター、センターおこづの活動が活気づいている。

毎月二十日発行  
寺泊ふるさとだより

編集人 中村 興樹  
発行人 窪 沢 泰 忍  
発行所 新潟県寺泊町  
ふるさとだより

郵便番号 九四〇―二五〇二  
ダイヤル局番 〇二五八七五  
電話 二〇二九番  
電話番号 〇二五三三七四五  
印刷所 吉野印刷株式会社